

理想の住まいの条件

東京都江東区立深川第四中学校

三年 米澤綾花

この夏、我が家、いやマンション全体は大忙しだった。マンション全体全戸の給水管・排水管取替工事を行ったのだ。

部屋番号ごとにブロック分けして工事した。トイレ、洗面所は床板も壁も全部はがして配管の取替をした。同時に台所・浴室の配管も取り替えたから、しばらくは不便を強いられた。調理の制限があるため、いつもの母の料理ではなくお弁当。お風呂も決まった時間のみ入れた。トイレは、工事の間中は使用できず近所の公民館まで行った。これが数日間続いた。

水回りを使う制限が、こんなに困ったこととは今まで思わなかった。行きたいときに家のトイレに行き、決まった時間に母の料理が出てきて、汗をかいたり気分転換したいときにシャワーを浴びることがなんてありがたかったのだと思った。それでも、マンションの住人全員一致で工事を決めたそう。長く、今のこのマンションに住むためには必要な工事だった。私もそうだが、みんな、この家が好きなのだろう。であれば、数日のことなら我慢しなければ。そう思った。

どれほど素敵な家で、間取りもインテリアもおしゃれで最高でも、「ライフライン」と呼ばれる電気・水道が整備されていなければ住まうことはためらう。しかし、昔はそうでなかったはずだ。整備されたのは割と最近という地域もあるだろう。海外では、今もライフラインが家庭に備えられていない国もあるだろう。私たちは当たり前のように便利さに慣れ、しかもそれらが定期点検を受け安全であるから、安心して使える。恵まれているのだ。

「家」を構成する要素はいくつもある。どれもこれも大切で、大好きな家族と一緒に過ごせることが何よりだ。ただ、少々の便利さもどうかこれまで通りあってほしいと願う。